みんなにオススメ！明治モダンを体感しよう。

初めて訪れた２人に実際に足を運んで感じた、行ったらぜひ見て欲しいおすすめポイントを教えてもらいました。

オススメその1
幾何学紋様の天井とシャンデリア

明治当初の輸入品でポルトガル製とされる紙が、４部屋の天井一面にわたって貼られていて、見渡すと圧巻です。アメリカ製オイルランプ式のシャンデリアが飾られ西洋の雰囲気がありとってもおしゃれ。床は畳敷きであるなど、見て分かりやすい和洋折衷の部屋となっていて写真映え間違いなし。

オススメその2
バルコニーとオーダー型柱

擬洋風建築に代表されるバルコニー。現在は、綺麗に修復されていますが、当時は大工が見よう見まねで作ったために脆(もろ)く、何度も改造した後に撤去されたそうです。また、漆喰で西洋の彫刻柱を再現したオーダー型柱は、横や後ろから見ると円柱ではないことが分かります。白を基調としたバルコニーは、屋内と同じように当時の西洋の雰囲気を感じることができるかも。

オススメその3
漆喰鏝絵

左官の名工「入江長八」が壁に施した漆喰鏝絵「雨中の虎」。松城家住宅に施された作品の中で一番細やかで、細部にわたる技術は見事です。

漆喰鏝絵 一挙にご紹介します。

国の重要文化財に指定された理由のひとつでもある、左官の名工「入江長八」とその一門により、手作業で壁や天井に施した漆喰鏝絵を紹介します。

左官の名工 入江長八

松崎村（現松崎町）生まれ。12歳で左官に弟子入り、19歳から学んだ絵と彫刻を漆喰細工に応用し、独自の方法を編み出して名を馳(は)せた。幼い頃から手先の器用さは抜群だったという。

▲しぼり壁　当時粋とされた鼠(ねずみ)色の漆喰を使い、壁面が湿っている状態で薄い布をかぶせ、つまんで描かれたものと思われる。光により壁面の肌合いが変化し、見事。

▶雀　ジョウダンノマの西側には、遊ぶ雀たちが何羽も描かれている。

◀窓　３つある窓のうち、本当の窓は右の１つだけ。あとの２つは全体のバランスから漆喰で描かれたもの。

ランプ釣元(つりもと)飾り

天井のランプを吊るす釣元には、様々な漆喰鏝絵が描かれています。直接天井に描きながらも立体的に仕上げた見事な技術をご堪能ください。

◀牡丹　刀の鍔(つば)もしくは松城家家紋「木瓜紋(もっこうもん)」の形の額縁の中に、３輪の牡丹の花が描かれている。

▶秋の実り　椎茸の裏面の中に柿やぶどう、栗や里芋などが色付けされ、描かれている。

◀龍　円形額縁の中に龍が描かれている。目玉は左右金銀で色の異なるガラスでできている。

▶松竹梅　真ん中に配された梅を竹が円形に囲い、その周りに松が描かれている。